

赴任地 パナマ共和国
赴任校 パナマ日本人学校
蕨市立東小学校 長岡 潤

1 パナマ共和国の概要

(1) 歴史

パナマの「開祖」といわれているスペイン人バルボアが、アメリカ大陸で初めての植民都市ダリエンをパナマのカリブ海沿いに建設したのが1510年である。バルボアはその後地狭を横断し、太平洋を発見したのが1519年。そこに新しい港町を建設した。それがパナマシティの始まりである。パナマとはインディオ語で「魚の豊富な」という意味だそうだ。また、バルボアの名はパナマ共和国の通貨の単位として使われている。



パナマがヨーロッパ人に発見されて以来、常に注目されてきたのは、「太平洋」と「大西洋」を結ぶ最短の陸路コースであるという点であった。1848年にアメリカがカリフォルニアを手に入れ、金鉱山が発見されると、大西洋岸のコロンから太平洋岸のパナマ間50数キロに鉄道が敷かれるまでになった。1878年、フランス人レセップスが、スエズ運河に続いてパナマ地狭に運河を掘ろうと着手したが、工事半ばで頓挫した。その後運河はアメリカの手によって計画が再開され、1914年にパナマ運河が完成した。「パナマの歴史はパナマ運河の歴史である」という言葉がある通り、パナマは「運河」と切っても切れない関係にある。パナマ運河建設には技師として青山士という日本人も参加している。

パナマは、1903年11月にアメリカ合衆国の援助を受けてコロンビアから独立した。その後1999年にパナマ運河は、それまで管理し続けていたアメリカから完全に返還され、現在新たな時代を迎えている。

(2) 自然

パナマ共和国は北米大陸と南米大陸を結ぶ細長く湾曲した地形で、その広さは北海道よりもやや狭い約8万平方キロメートルである。平地部分が少なく大部分が高度900～1500mの丘陵地帯で、高温多湿の亜熱帯地帯に属する。気温は、山岳地帯は別として、パナマシティでは年間を通して概ね日中が30度～35度、夜間が25度～30度くらいである。5～12月は雨季、1～4月が乾季となる。雨季は、毎日1～2時間雷を伴った激しいスコールがあるが、ここ数年はエルニーニョ・ラニーニャ現象に伴い、しとしとと雨が降り続き涼しく感じる年もある。一方、乾季になるとほとんど雨は降らない。この時期になると半月に1回は刈り取りをしなければならなかった校庭の草木も枯れ、がらりと様変わりをする。パナマは、亜熱帯から熱帯に位置しているため、平均雨量は太平洋側で年1800mmにもなり、湿度は年間を通して70～80%以上もある。



(→道路です。)

(3) 社会

パナマ共和国は北海道よりやや小さいぐらいの面積で、人口は約 330 万人くらいである。人種は黒人系のほか、インディオと白人の混血である人々が主体だ。パナマの産業は国内総生産の約 80%が銀行業、商業等のサービス産業であり、農業ではバナナ、コーヒー等を作り、漁業ではエビ等が中心である。

パナマの特色としては「フリーズゾーン」があり中南米における物流の拠点であること、パナマ運河があり世界の交通の要所であることだ。また、通貨は「バルボア」だが独自の紙幣がなく米ドル紙幣がそのまま流通している（硬貨はパナマのものと米国のものと両方使える）こと、金融センターがあること、会社の設立が容易であること等、中南米の他の国にない多くの特色がある。日本や他の国の法人が所有していながら「パナマ船籍」である船が多いことも特徴だ。物価は年々上昇しており、3 年間のパナマ生活の中でも電気及び燃料費、食料品の値段などの高騰を感じた。

パナマは 1986 年以来軍政が続き、トリホス将軍の後を継いでノリエガ将軍が実権を握ったが、89 年 12 月の米軍侵攻の結果、ノリエガ将軍が米軍により逮捕され、同時にエンダラ政権が発足し民政が復活した。

現在、経済は貿易や運輸、金融などを中心に成長が続いており、リーマンショック後も好景気を維持し、高い経済成長率を維持している。しかし、年金問題を含め国民の貧困状態は改善されておらず、労働者のストライキやデモがあちらこちらで行われている。

2006 年 10 月には海運拠点として運河の利用が増大する中、運河拡張計画についての国民投票があり、それを受け、2007 年 9 月には拡張工事が開始され、第 2 パナマ運河を建設中である。

着任した 2009 年には大統領選挙が実施され、現任のマルティネリ政権となった。道路整備が進み、学校のすぐ近くには片側 6 車線全 12 車線のシンタコステラ（臨海公園を含む）が完成した。また、中米では初めてとなる地下鉄の整備が始まり、急ピッチで工事が進められ、2014 年の開業を目指している。



2 パナマ日本人学校

1974 年（昭和 49 年）「パナマ日本人学校」が在留邦人の努力と期待のうちに誕生した。教師 2 名、児童生徒は 9 名でスタートし、10 年後の 58 年には児童数 134 名までになったが、19 年前の政情不安によって急激に減少し、帰任時（平成 24 年 3 月）は児童数 12 名、教師は 5 名（校長含む）の在籍にまで落ち込んでいる。

子どもたちは明るく素直でスポーツ好きであり、一年中水泳ができるため、小 1 から全児童生徒が泳ぐことができる。校庭が極端に狭いこと、（直線で 40m とることができない）暑さの中で長時間の運動ができないことから、体力向上の柱として、水泳学習に注力する

